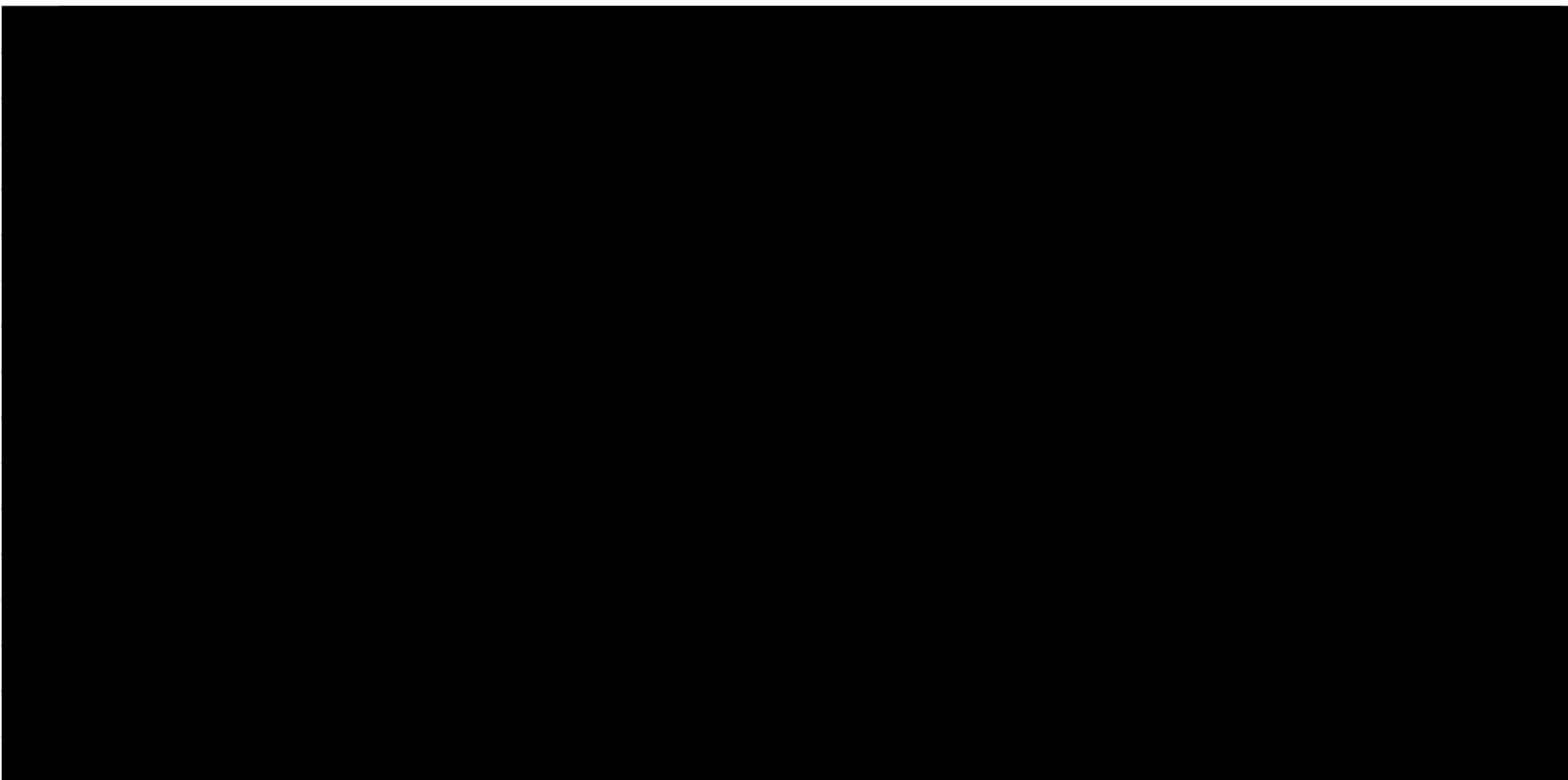


2026年度大学院博士後期課程入学試験問題

研 究 科 名	科 目 名
文学研究科 人文学専攻 仏教学専修	中 国 語

次の中文を和訳しなさい。



出典：李四龙《南北朝〈法华经〉注疏体例之演变》（张风雷/菅野博史主编；张文良/袁轮显量副主编：《〈法华经〉与东亚佛教一第六届中日佛学会议论文集》宗教文化出版社，2024），pp. 35-37

解答または解答例：

Sample Answer(s) or Outline:

南宋時代の志磐は『仏祖統紀』において、智顗は「五章を貫いて経題を解釈し、四釈に分けて文句を解釈した」、「五義によって経題を釈し、四釈によって文句を解釈した」と述べている。五章とは、釈名・弁体・明宗・論用・判教を指し、智顗が仏經の題名を解釈するための方法であり、『法華玄義』において最も徹底的に用いられている。この方法は、仏經の思想的義理を総体的に解説するもので、通常「五重玄義」とも称される。四釈とは、因縁釈・約教釈・本迹釈・観心釈を指し、智顗が仏經の章句を解釈するための方法である。これにもとづいて、『法華文句』や『維摩經文疏』のような、天台宗の「文句」あるいは「文疏」が成立している。したがって、智顗による『法華經』の完全な講説は、本来『玄義』と『文句』の二部分を含むべきものである。

「四釈」は智顗の經文注釈の方法であり、通常「四意消文」とも呼ばれる。因縁釈とは、説法の機縁を説明するものであり、衆生の根機だけでなく、説法の時機をも含んでいる。智顗によれば、諸仏・菩薩による講經説法は、衆生自身の機縁と密接に関係し、両者は相互に感応し合うのである。約教釈は、あるいは「依教釈」とも呼ばれ、「藏・通・別・円」の教判理論にもとづいて經文を解釈する方法である。智顗はすべての仏經を三藏教・通教・別教・円教の四つの段階に分類したが、同一の仏經の經文であっても、異なる段階の仏法の境界に対応する可能性があり、それによって仏陀が衆生の機根に応じて教えを説くという特徴が示される。本迹釈とは、本門と迹門という二つの側面から經文を解釈するものである。智顗は僧肇の「本に非ざれば以て迹を垂ること無く、迹に非ざれば以て本を顯すこと無し」という見解を引用し、文字表現の表面的な姿を通して經文の真実の意味を把握すべきであることを強調した。智顗が

「本迹」によって仏経を解釈する際には、主として成仏の因果が論じられる。また実際の講説においては、理事・理教・教行・体用・権実・已今という六つの側面から、本迹関係の異なる類型を区別している。哲学的思弁の色彩が極めて濃厚な「本迹釈」は、修行者が十分に把握できなければ、かえって害を受けることになる。それは、貧しい人が「日夜、他人の宝を数うるも、自らは半銭の分も無し」と言われるのと同様である。そのため智顗は、仏典の学習において最も重要なことは「ただ己心を観ずる」ことであると主張した。観心釈とは、まさに自己の観心の実践を出発点として経文を検証する方法なのである。

出題意図：

purpose of Questions：

大学院レベルの中国仏教に関する中国語の論文を正確に翻訳、理解できるかを判定すること。